



© Keiji Uematsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 植松 奎二 Invisible Force -見えない力

会期：2015年9月4日（金） - 9月30日（水）

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room Shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

オープニングレセプション：9月4日（金）18:00-20:00

2015年9月4日（金）より、ユミコチバアソシエイツでは、植松奎二の個展“ Invisible Force-見えない力”を開催致します。

植松奎二は、重力、引力、磁場といった、通常意識する事のない見えないものを視覚化し感じさせる作品を一貫して制作し、その普遍的な見えない力の法則から、世界の構造、存在、関係をよりあらわにしようとしてきました。

1971年より10年にわたって集中して制作された「截接」のインスタレーションを、その均衡関係を自身の身体で提示した写真作品と共に再構築した前回の個展に引き続き、今回2回目となる個展では、近年から現代につながる新作に焦点を当てます。

1989年から制作され始めた「Floating Form」や「Touch of Spiral」（1990）に引き続き今に至る「Invisible Force」のインスタレーションを展開した今回の展示空間は、植松奎二の依然として継続する「見えないものとはなにか」という問いかけに、再び対峙しようとするものです。銅板でつくられた紡錘体/円柱体と石とが天井を支点に均衡を保つ Invisible Force のインスタレーションは、物質と物質、あるいは物質と建築との間、緊張と均衡の間にある「見えない力」を私たちに喚起します。また、同時に壁面全体には、ドローイング --- 斜めのストロークを木炭で力強く断続的に描いた「連続の場-軸」を展開することで、空間は完成します。大きなストロークの連続/反復で描かれるドローイングは植松奎二にとって、最も身体的な行為と言えるかもしれません。

Invisible Force の彫刻が垂直方向へ働く見えない力をダイナミックに提示しているのであれば、ドローイングはあたかも地球の自転軸（「Axis」）のように、静寂で永続的な水平方向へのエネルギーを可視化します。

「みえる構造・存在・関係をあらわにみえるようにすること。みえない構造・存在・関係をみえるようにすること。みえる構造・存在・関係をみえなくすること。」（植松奎二 1972年）

この世界を成り立たせている最もシンプルかつ普遍的でありながら、日常の視覚体験の中では意識することのない「見えない力」を、植松奎二は提示し続けているのです。



## ■Artist Statement

今、丁度午前零時。この地球が一回転したことになる。

私たちの地球では23.43度地軸が傾いている。その地軸は2万6千年かけて少しずつずれて一回転して元に戻ると云われている。

今ある北極星は一万年後には別の星になっている — 見えない地軸 —

世界の構造存在、関係をよりあらわに見えるようにして何かを発見したい、見えないものが見えるようにしたいといつも思いながら制作してきた。

それは、ときには物と物との間にある重力、引力といった目に見えない普遍的な力への関心であったり、根源的なものと宇宙的な力への素朴な関心である。

そして自然や地球、宇宙といったものに囲まれている、人間の存在に対する問いかけである。

今回の個展のテーマは「見えない力-Invisible Force」

— 僕たちの感覚の根底には無意識のうちに重力感覚がある —

目に見えない重力、引力を目で確かめることの出来る重力のかたちの場がつくられる。

重力の場から、地球と宇宙、自然と人間の存在にかかわる関係を示すような、小さな宇宙空間を画廊の中に創り出すことを考えている。

我々は重力、引力がなければこの地球上に存在出来ないように、宇宙も、太陽と地球も、星と星も、目に見えない大きな重力場によって存在を決定づけられている。

重力こそ、ものにとって、世界に、宇宙にとって、最大の拘束条件であり、それは世界の方向性の軸と構成軸としての、垂直と水平を表わす。

「見えない力-Invisible Force」の個展会場には、私たちの持っている常識的な視覚を覆し、知覚を超えた発見の場を、空間の中につくり出すことが出来ると思っている。

2015年7月14日 植松奎二

## ■植松奎二 個展 “Invisible Force-見えない力”

会期：2015年9月4日（金） - 9月30日（水） 12:00-19:00 休：日、月、祝日

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

## ■ オープニングレセプション

日時：2015年9月4日（金）18:00-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku



## ■プロフィール

### 植松奎二（うえまつ けいじ）

- 1947 兵庫県生まれ
- 1969 神戸大学教育学部美術科卒業
- 1973 第8回ジャパンアートフェスティバル 優秀賞受賞
- 1974 神戸市文化奨励賞受賞
- 1990 第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻大賞受賞
- 1997 第28回中原悌二郎賞優秀賞受賞
- 2010 神戸市文化賞受賞
- 2013 第38回中原悌二郎賞受賞 他、受賞多数

### <主な個展>

- 1969, 70, 71, 73, 74, 75, 79, 84, 95, 2012, 15 ギャラリー16（京都）
- 1974, 88, 90, 2000, 01, 04, 05, 06, 07, 08, 10 信濃橋画廊（大阪）
- 1976-77 「彫刻・写真・ビデオ・フィルム」ストックホルム近代美術館（ストックホルム、スウェーデン）
- 1977 「立体と写真」市立ヴィースバーデン美術館（ドイツ）  
アウスシュニッテ1「植松奎二」デュッセルドルフ市立近代美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 1980-81 「軸 - 経度 - 緯度」P.S.1. ニューヨーク（ニューヨーク、アメリカ）
- 1981 今日の作家シリーズ「植松奎二展 立体と写真」大阪府立現代美術センター（大阪）
- 1981, 83, 86, 91, 92, 2001, 04, 08 ボードワン・ルボンギャラリー（パリ、フランス）
- 1981, 85, 89, 93 ギャラリー・ロオール（メンヒェングラッドバッハ、ドイツ）
- 1982 「回廊のための構成」サントロフィーム教会（アルル、フランス）
- 1984 「布と枝による構成」ロッテルダム市立現代美術センター（ロッテルダム、オランダ）
- 1989 「彫刻とドローイング」ギャラリー・キキ・マイヤー・ハーン（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 1990, 91, 93, 97, 2003 「彫刻」ヴァッサーマンギャラリー（ミュンヘン、ドイツ）
- 1991 「植松奎二展」ドルトムント・クンストフェライン（ドイツ）  
「逸脱する時間／空間」西武アート・フォーラム（東京）
- 1992 「植松奎二展」ウルズラ・ブリックレ財団（クライヒタール、ドイツ）
- 1994 「イツ・ポッシブル」ジークブルグ市立美術館（ドイツ）
- 1996 「輪 - 緯度 - 経度」ヒルサイドギャラリー（東京）
- 1997 「知覚を超えてあるもの」西宮市大谷記念美術館（兵庫）
- 1999, 02, 05, 07, 2009, 12, 14 ギャラリーノマル（大阪）
- 2003 「身体と眼差しへの思考 '70s の写真・映像から新作まで」北九州市立美術館（福岡）  
「軸 - 経度 - 緯度」ヴァッサーマンギャラリー（ミュンヘン、ドイツ）  
「地軸の傾きから」国際芸術センター（青森）
- 2005 「Axis - Latitude - Longitude」マルカステン美術家協会（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 2006 「時間の庭へ」西宮市大谷記念美術館（兵庫）
- 2009 ギャラリー・バレー・バツハ（ブリュッセル、ベルギー）
- 2010 ギャラリー ヤマキファインアート（兵庫）
- 2011 クムサンギャラリー（ソウル、韓国）  
ユミコチバアソシエイツ（東京）
- 2012 「平行軸 空間-時間 Uematsu & Skoda」ボードワン・ルボンギャラリー（パリ、フランス）  
「宇宙の気配から-浮」ギャラリー16（京都）  
「軸-重力・反重力」ギャラリーノマル（大阪）
- 2013 「載接-軸・経度・緯度」ユミコチバアソシエイツ（東京）
- 2014 「見えない軸-距離と角度」ギャラリーノマル（大阪）
- 2015 「見えない力」アラリオギャラリー（チョナン、韓国）
- 2015 「見えない力」ユミコチバアソシエイツ（東京）

### <主なグループ展>

- 1969 「第1回現代国際彫刻展」箱根彫刻の森美術館（神奈川）
- 1971 「第10回現代日本美術展 人間と自然」東京都美術館（東京）、京都市美術館（京都）  
「和歌山現代美術展」和歌山県立近代美術館（和歌山）
- 1972 「第2回現代国際彫刻展」箱根彫刻の森美術館（神奈川）
- 1972, 79 「今日の作家'72展」横浜市民ギャラリー（横浜）
- 1974 「日本の伝統と現代」デュッセルドルフ市立近代美術館（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 1975 「2人の現代作家と南蛮美術館、河口龍夫・植松奎二」神戸市立南蛮美術館（兵庫）
- 1981 「アートナウ '70- '80」兵庫県立近代美術館（兵庫）
- 1983 「写真による芸術」ベルリン・ナショナルギャラリー（ベルリン、ドイツ）
- 1983-84 「現代美術における写真展」東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）
- 1985-86 「彫刻展」カルティエ現代美術財団（パリ、フランス）
- 1988 「第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本館」ジャルテーニ・ティ・カステーロ（ヴェニス、イタリア）
- 1990 「第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」神戸市立須磨離宮公園（兵庫）
- 1991 「現代日本の動態-立体造形」富山県立近代美術館（富山）
- 1993, 95, 97 「第15回現代日本彫刻展 翔」宇部市野彫刻美術館（山口）
- 1994 「関西の美術 1950-1970」兵庫県立近代美術館（兵庫）  
「3rd 北九州ビエンナーレ」北九州市立美術館（福岡）



- 1995 「戦後文化の軌跡 1945-1995」目黒区美術館（東京）、広島市現代美術館（広島）、兵庫県立近代美術館（兵庫）、福岡県立美術館（福岡）
- 1997 「重力ー戦後美術の座標軸」国立国際美術館（大阪）
- 2000 「ヘルシンキ 2000 アートガーデン」テーレ湾（ヘルシンキ、フィンランド）  
「大地の芸術祭・越後妻有アート・トリエンナーレ 2000」松之山町（新潟）
- 2003 「うるわしの京都いとしの美術館」京都市美術館（京都）  
「彫刻における素材、ブロンズ」Counseil general des BDR（マルセイユ、フランス）
- 2004 「美術の元素 <5つの部屋> 立体、油、水、硝子、絹・紙」西宮市大谷記念美術館（兵庫）  
「彫刻家の素描展」旭川市彫刻美術館（北海道）  
「ドルトムンド・クンストフェラインの20年」ドルトムンド・クンストフェライン（ドルトムンド、ドイツ）
- 2005 「6人の作家/Articulation 2004」アートコートギャラリー（大阪）
- 2006 「ポチョン国際彫刻シンポジウム」（ポチョン、韓国）  
「初期ビデオアート再考」名古屋市民ギャラリー 矢田（名古屋）  
「Gold Rush, Takuma +1 +1」クムサンギャラリー（ヘイリ、韓国）  
「空間に生きる-日本のパブリックアート」札幌芸術の森美術館（北海道）、世田谷美術館（東京）
- 2007 「日本現代芸術祭」（ヘイリ、韓国）  
「天体と宇宙の美学」滋賀県立近代美術館（滋賀）  
「24hours 7days a week」アルテフェアズウム（デュッセルドルフ、ドイツ）
- 2008 「写真の美術・美術の写真」大阪市立近代美術館心斎橋展示室（大阪）  
「現代美術の冒険」西宮市大谷記念美術館（兵庫）  
「Vital Signals」広島市現代美術館（広島）
- 2009 「ビデオを待ちながら-映像、60年代から今日へ」東京国立近代美術館（東京）  
「その森は謡う 2nd Family project」あさご芸術の森美術館（兵庫）  
「神戸ビエンナーレ Kobe Biennale 2009 -港で出会う芸術祭-」神戸港（兵庫）  
「Bit. fall-Wasserfall ビット・フォール -滝」道頓堀（大阪）
- 2010 「大原 Best 大原美術館創立 80周年記念特別展」大原美術館（岡山）  
「Seeing -6人の作家による写真表現」富士ゼロックスアートスペース（神奈川）  
「コレクション展 2 近年の収蔵品を中心に」国立国際美術館（大阪）
- 2011 「中原悌二郎賞創設 40周年記念展」中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館（北海道）  
「メンヒェングラッドバッハにおける 30年のギャラリー・ロオール」（メンヒェングラッドバッハ、ドイツ）  
「1970年代へ 写真と美術の転換期 -複写 反射 投影」ユミコチバアソシエイツ（東京）  
「鉄に挑む熱き男たち」BB プラザ美術館（兵庫）
- 2012 「ミュゼ レアトゥ アクトV」ミュゼ レアトゥ（アルル、フランス）  
「対話する美術/前衛の関西」西宮市大谷記念美術館（兵庫）  
「Zauberspiegel」クンストハーレ プレーメン（プレーメン、ドイツ）  
「言葉と美術が繋ぐもの -中原佑介へのオマージュ展」ギャラリーヤマキファインアート（兵庫）
- 2014 「Image And Matter In Japanese Photography From The 1970s, Curated By Yumiko Chiba」MARIANNE BOESKY GALLERY（ニューヨーク、アメリカ）  
「In-between 植松奎二/渡辺信子」ボードワナルボンギャラリー（パリ、フランス）  
「植松奎二/渡辺信子」シャトウー メゾン モーゼル（アンドレシー、フランス）  
「4x4」ステファン フリードマン ギャラリー（ロンドン、イギリス）  
「artevida: corpo [body] -」Casa Franca Brasil（リオデジャネイロ、ブラジル）  
「1974 戦後美術の転換点」群馬県立近代美術館（群馬）
- 2015 「For a New World to Come, Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979」ヒューストン美術館（ヒューストン、アメリカ）、Grey Art Gallery, New York University（ニューヨーク、アメリカ）、Japan Society Gallery（ニューヨーク、アメリカ）  
「反・映像表現 1972/2015」東京国立近代美術館（東京）

### <パブリックコレクション>

兵庫県立美術館、西宮市大谷記念美術館、国立国際美術館、神奈川県立近代美術館、大原美術館、北九州市立美術館、京都市美術館、旭川市彫刻美術館、カルティエ現代美術財団、ストックホルム国立近代美術館、市立レンバッハ美術館、プレーメン美術館、市立ヴィースバーデン美術館、ニューヨーク近代美術館

### 【本展に関するお問合せ】

ぜひ貴社にて御紹介くださいますよう宜しくお願い申し上げます。尚、御質問および画像データの御依頼は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 展覧会担当：宮中

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 Tel: 03-6276-6731 e-mail:

info@ycassociates.co.jp website: [www.ycassociates.co.jp](http://www.ycassociates.co.jp) 営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日・月・祝日